



NPO法人 大谷石研究会



大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝える大谷石研究会の広報誌

日本全国の石文化や石建造物を学ぶ

「大谷石研究会 伊豆研修旅行」

NPO法人 大谷石研究会 尾立弘史

「大谷石研究会 伊豆研修旅行」を2018年6月23日～24日、参加者19名で行ってまいりました。主な見学先は、江の浦測候所、湯谷神社採石場跡、三養荘（宿泊場所）、葦山反射炉及び江川邸、修善寺紙谷採石場跡、MOA美術館と、一泊二日で、盛沢山の内容の快適な旅でした。

■小田原文化財団 江之浦測候所（小田原市江之浦）

まずは、大谷石研究会ですら大谷石使用の建物から。杉本博司の作品展示と石を生かす作庭と建築です。施設は、ギャラリー棟、石舞台、光学硝子舞台、茶室、庭園、門、待合などから構成され、当日はあいにくの雨で、特に遠景が真っ白で、屋外空間の鑑賞に不便がきました。

使われている石材は、古今東西多岐にわたり広く因縁付きのもので、それらを巧みに組み合わせ、庭園を構成しています。

そして、圧倒されるのが「夏至光遥拝100mギャラリー」を支える「大谷石」の壁です。高さ約3・5mの石の壁として100mますすべに配置され（途中が所に非常口）、その方向は夏至の日の出の方向と説明されてい

る。石の壁とフレームレスのガラスにより100m直線の展示室が構成され、屋根を支えるのはこの石の壁のみです。石は切りだしたばかりの物ではなく、色がくすみ、角の落ちたいわゆる古材です。石を提供した当会理事（高橋啓子さん）によると、準備していたものはすべてため、過去にストックした物や野ざらしの物を持って行ったとのこと。

内部の石の壁に絵画が数点展示してあり、展示室の先端は崖上に12m持ち出している。展示室の地下には外部から出入りできるトンネルがあり、その向きは冬至の日の出の方向だそうです。

石の壁の反対側にも石の庭園があり、見るべきものも多いのですが、あいにくの雨で、庭の鑑賞には不便をきたしました。空を背景にした屋外円形劇場（舞台床はガラスのよう）も天気の演出が欠かせません。「待合棟」が別棟であり、まずここに入って説明を受けます。なお、完全予約制で入場料は3240円でした。



江の浦測候所「長さ100mの大谷石の外壁」



小田原文化財団 江之浦測候所「夏至光遥拝100mギャラリー」



別棟の待合棟